症 例

子宮頸部漿液性腺癌の1例

辰口芳珠記念病院産婦人科

西本 秀明

背景：漿液性腺癌は卵巣癌ではよくみられる組織型であるが，子宮頸部原発の漿液性腺癌はきわめてまれである．今回本症例を経験したので報告する．

症例：症例は35歳，2経妊2産婦で主訴は性交後出血であった．術前の細胞診では，高度の異型を示す癌細胞がみられ，腺管形成は認められるが，充実性増殖は不明瞭で endometrioid type の adenocarcinoma, G1-2 に相当と診断された．生検では，一部高円柱上皮が乳頭腺管状に増生している部分も認めたが，大部分は小型立方上皮が主として小充実巣を形成し，一部表面に微小乳頭状に増生する部もみられ，子宮体部の endometrioid adenocarcinoma, G3 の診断であった．しかし術後の病理組織診断では子宮頸部漿液性腺癌であった．

結論：Retrospective に細胞診，生検組織診および術後の組織学的診断を検討，文献的考察も加え報告する．

Key words : Uterine cervix—Cytology—Serous adenocarcinoma—Case report

I. はじめに

漿液性腺癌は，卵巣癌や卵管癌においては一般によくみられる組織型であるが，子宮頸部に発生する漿液性腺癌はきわめてまれである．私が調べた限りでは報告症例は計37例であった (Table 1) ^{1~14)}．

今回，子宮頸部漿液性腺癌の1例を経験したので報告する．

II. 症 例

症 例：35歳，2経妊2産婦

主 訴：性交後出血

既往歴：既往妊娠とも McDonald 手術帝王切開分娩．女性ホルモン内服既往なし

家族歴：特記すべきことなし

臨床経過：平成11年10月7日性交後出血を主訴として初診．クスコ診では，2度にわたる頸管縫縮術の

Table 1 Case reports of serous papillary adenocarcinoma of the uterine cervix

1989	Resta, L	1
1991	Lurie, S	1 (in pregnancy)
1991	Gilks, CB	3
1993	Shintaku, M	1
1993	Rose, PG	2
1996	Arai, Y	1
1997	Nguyen, GK	4
1998	Zhou, C	17
1997	Utsugi, K	1
1997	Inagaki, N	1
1998	Kaplan, EJ	3 (familial)
1998	Fujiwaki, R	1
1999	Fushiki, M	1
1999	Suzuki, R	1

A case report of serous adenocarcinoma of the uterine cervix
Hideaki NISHIMOTO, M. D.

Department of Obstetrics and Gynecology, Tatsunokuchi
Houju Memorial General Hospital

論文別刷請求先 〒923-1226 石川県能美郡辰口町字緑が丘
11の71 辰口芳珠記念病院産婦人科 西本秀明

平成13年4月11日受付

平成13年12月14日受理

ためいわゆる SC-Junction は頸管内にあり, コルポスコープ検査は不可能であった。内診所見は, 子宮は正常大で, 傍結合組織には異常を認めなかった。両側付属器にも特に所見は認めなかった。そこで頸管, 体部内膜の細胞診検査を施行した。

初診時の頸管内膜, 体部内膜の細胞診診断は, Class V, adenocarcinoma, endometrioid type であった。その所見は, 高度の異型を示す癌細胞がみられ, 腺管形成は認められるが, 充実性増殖は不明瞭で, G1-G2 相当の endometrioid adenocarcinoma が示唆された。10月21日内膜生検を施行し, endometrioid adenocarcinoma, G3 と診断された。

11月15日子宮体癌の診断で準広汎子宮全摘術を施行した。しかし, 術後の病理組織学的検査で子宮頸部漿液性腺癌と診断され, 臨床進行期分類で 1b2 期であった。

このことから retrospective に, 細胞所見, 組織所見を見直し再検討し, また文献的に調査考察した。

子宮頸管内膜細胞診所見: debris が多く汚い背景に, 大型で N/C 比大の高度異型の悪性細胞が, 重積性のある cluster を形成して多数出現し, 一部には腺腔様配列をみた。核は類円形で大小不同が著しく, 核クロマチンは粗顆粒状で不均等に分布し, 明瞭で大きい核小体を有していた (Photo. 1, 2)。

子宮内膜生検所見: 一部高円柱上皮が乳頭腺管状に増生している部分も認められたが, 大部分 (Photo. 3) は小型立方上皮が主として小充実巣を密に形成し浸潤し, 一部表面に微小乳頭状に増生する部もみられ, 核は大型円形で濃染し, 異型・核分裂は高度で, endometrioid adenocarcinoma, G3 と診断された。

手術標本の肉眼所見: 子宮および両付属器 (Photo. 4)。子宮は, ほぼ正常大。体部は著変なし。頸管前壁に剖面で 2×1 cm, 不整形の白色の硬い腫瘍をみ, 後壁も膨隆し硬いが明らかな腫瘍をみない。両側卵管は著変なく, 両側卵巢は濾胞性嚢胞を多数みるのみである。

手術標本の病理組織所見: 子宮頸部前壁を中心に全周, 頸管全長から一部体下部, 子宮腔部におよび, 筋層最下部まで浸潤する癌を認めた。表層の一部に粘液分泌を示さない大型円形核円柱上皮が腺管を形成する endometrioid adenocarcinoma に類似する部分 (Photo. 5) が認められたが, ほとんどが表面上皮を含め表層から下層まで, N/C 比の大きい小型立方上皮が間質を伴う微小乳頭を密に形成する増生を示し上皮の芽

出がみられ, 樹枝状増生も散見され (Photo. 6, 7), serous adenocarcinoma と診断された。しかし Psammoma body は認められなかった。

III. 考 察

婦人科領域における漿液性腺癌は, 卵巣癌の約 40%, 子宮体癌の約 2~5% を占めるといわれているが, 子宮頸部に発生することはきわめてまれである。今回私が調査した限りでは, 世界で 37 例であった。そのほとんどが組織学的所見を中心に報告されている (Table 1)。子宮頸部乳頭状漿液性腺癌として病理組織学的所見を詳しく報告したのは, 1992 年の Gilks の論文が初めてであろう³⁾。鑑別すべき癌の組織型としては, 明細胞腺癌や絨毛腺管状乳頭腺癌があげられる。明細胞腺癌の細胞診所見では, 染色性が弱く, 細胞質内に微細空胞を有する大きな細胞が出現し, 核は大型で, しばしば細胞中央に位置し, クロマチンはわずかに増量し, 顆粒状または網状であり, 単一の丸い巨大核小体が一般に認められるという¹⁶⁾。これらのことから鑑別可能である。組織学的には乳頭状構造の間に高頻度に硝子化が認められ, hobnail 細胞も認めるが, 漿液性腺癌では認められないことから鑑別が可能であろうと Gilks は述べている³⁾。Psammoma body は明細胞腺癌にも認められることがあるので, 漿液性腺癌の診断根拠にはならない¹⁵⁾。また最近報告されている絨毛腺管状乳頭腺癌は組織学的には漿液性腺癌に類似するが¹⁶⁾, Gilks が述べているように, 腫瘍は表層に存在し間質浸潤はごくわずかで, 細かい不規則な乳頭状構造を欠き, 円柱細胞は単層配列を示し, 低分化な核の形態を欠くことから, 漿液性腺癌と鑑別可能である。

本症例では, 浸潤は筋層下部に及んでおり, 表面上皮を含め表層から下層まで N/C 比の大きい小型立方上皮が細かい乳頭を密に形成する増生がほとんどで, hobnail type cell や間質の硝子化は認められず, 漿液性腺癌と診断した。

子宮頸部漿液性腺癌の細胞診像に関しては, 詳細な報告がきわめて少ないため, 細胞診所見は, 他の頸部癌と比較検討できない。

子宮体部の漿液性腺癌については, 立岡¹⁷⁾や山城¹⁸⁾らによると重積性著明な乳頭状集塊を形成し, 細胞は N/C 比が高く大小不同な核を有し, クロマチンは粗顆粒状, 大型で明瞭な核小体が 1~2 個存在す

ることから、G3の体部腺癌と類似すると述べている。本症例でも、重積性のある細胞集塊が多数出現しており、個々の細胞所見は、核の大小不同著明、粗で不均等なクロマチン分布、1~2個の大型で明瞭な核小体の存在など、子宮体部の低分化型類内膜腺癌と類似していた。細胞学的鑑別については今後の詳細な研究が待たれる。

本症例の検討に金沢大学名誉教授、当院病理科部長松原藤継先生に多大なご協力を頂いたことをこの場をお借りし深謝する。

本症例の要旨は第39回日本臨床細胞学会秋期大会で発表した。

Abstract

Background : Serous (papillary) adenocarcinoma of the uterine cervix is rare, with only 37 cases being reported worldwide to our knowledge.

Case : A 35-year-old woman reporting postcoital bleeding was found in cytological examination of the endocervix and endometrium to have many malignant cells forming clusters with stratification. Their enlarged nuclei showed anisonucleosis, coarse chromatin, and prominent nucleoli. The diagnosis of the endometrial biopsy was endometrioid adenocarcinoma, G3.

We conducted modified radical hysterectomy, giving a postoperative pathological diagnosis was serous adenocarcinoma of the uterine cervix.

Conclusion : This case of uterine cervical serous adenocarcinoma is very rare.

文 献

- 1) Resta, L., Scordari, M.D., Mastrogiulio, R.S., Faggiano, C., Sabatini, L., Trimigliozzi, F., et al. Endocervical adenocarcinoma; Clinico-pathologic and histochemical study of 29 cases. *Eur. J. Gynecol. Oncol.* 1989; 10: 49~54.
- 2) Lurie, S., Dgani, R., Gorbacz, S., Borenstein, R. Invasive papillary serous adenocarcinoma of the endocervix in pregnancy; A case report. *Eur. J. Obstet Gynecol. Reprod. Biol.* 1991; 40: 79~81.
- 3) Gilks, C. B., Clement, P. B. Papillary serous adenocarcinoma of the uterine cervix. A report of Three cases. *Modern Pathology.* 1992; 5: 426~431.
- 4) Shintaku, M., Ueda, H. Serous papillary adenocarcinoma of the uterine cervix. *Histopathology.* 1993; 22: 506~507.
- 5) Rose, P. G., Reale, F. R. Serous Papillary carcinoma of the cervix. *Gynecologic Oncology* 1993; 50: 361~364.
- 6) 荒井ゆう子, 西田正人, 西出 健, 河野桂子, 角田肇, 久保武士. 子宮頸部漿液性腺癌の1例. *日臨細胞誌* 1996; 35: 424~427.
- 7) Nguyen, G. K., Daya, D. Exfoliative cytology of papillary serous adenocarcinoma of the uterine cervix. *Diagnostic Cytopathol.* 1997; 16: 548~550 (letter).
- 8) Zhou, C., Gilks, C.B., Hayes, M., Clement, P.B. papillary serous adenocarcinoma of the uterine cervix: A clinicopathologic study of 17 cases. *Am. J. Surg. Pathol.* 1998; 22: 113~120.
- 9) 宇津木久仁子 加藤友康, 清水敬生, 秋山 太, 梅澤聡, 石谷敬之・ほか. 子宮頸部漿液性腺癌の1例. *日産婦誌* 1997; 49: 1137~1140.
- 10) 稲垣 昇 藤井義弘, 西野るり子, 是松元子, 清水健, 長谷川清志・ほか. 子宮頸部の明細胞癌と漿液性乳頭状腺癌が共存した1例. *日臨細胞誌* 1997; 36: 403~407.
- 11) Edward, J., Kaplan, M. D., Thomas, A. Caputo, M. D. Familial Papillary Serous Carcinoma of the Cervix, Peritoneum, and Ovary: A Report of the First Case. *Gynecologic Oncology.* 1998; 70: 289~294.
- 12) 藤脇律人, 前出喜信, 渡邊祐美, 高橋健太郎, 宮崎康二, 荒木 剛・ほか. Papillary serous adenocarcinoma of the uterine cervix の1例; 1998 Shimane J. Jpn. Soc Clin. Cytol. 11: 23~25.
- 13) 伏木 宏, 結城浩良, 寺畑信太郎, 田所 猛, 三井由紀子, 大橋美香・ほか. 抗癌剤が著効した子宮頸部漿液性腺癌の1例. *日臨細胞誌* 1999; 38: 578~582.
- 14) 鈴木理絵, 紙谷節夫, 神田義明, 松本加代, 菊地紫津子, 町田稔文・ほか. 子宮頸部漿液腺癌と扁平上皮癌および子宮内膜異型増殖症を同時発生した1症例. *日産婦神奈川誌* 1999; 36: 28~31.
- 15) Young, R. H., Scully, R. E. Invasive adenocarcinoma and related tumors of the uterine cervix. *Semin. Diag. Pathol.* 1990; 7: 205~227.
- 16) Young, R. E., Scully, R. E. Villoglandular papillary adenocarcinoma of the uterine cervix. A clinicopathologic analysis 13 cases. *Cancer* 1989; 63: 1773~1779.
- 17) 立岡和弘, 上坊敏子, 久嶋則行, 大河原聡, 林 玲子, 蔵本博行. 子宮内膜漿液性腺癌の細胞所見. *日臨細胞誌* 1993; 32: 948~955.
- 18) 山城竹信, 手島英雄, 八木裕昭, 平井康夫, 山内一弘, 荷見勝彦・ほか. 子宮体部の漿液性腺癌の細胞像の検討. *日臨細胞誌* 1989; 28: 745~751.

写真説明

- Photo. 1** Endocervical and endometrial smear. Malignant cells tend to form large clusters. Note the glandular arrangement (Pap. Stain. $\times 20$).
- Photo. 2** Higher magnification of Photo. 1. Malignant cells have enlarged round or oval nuclei with anisonucleosis, coarse chromatin, and prominent nucleoli (Pap. Stain. $\times 40$).
- Photo. 3** Endometrial biopsy. Carcinoma cells are small and cuboidal with large round or oval nuclei. Cells form small glands or solid cell nests. Note surfacial micropapillary cell growth (H-E Stain. $\times 10$).
- Photo. 4** Macroscopic findings of the operative specimen, uterus, and both adnexa. Note white hard cancerous tissues in all circles of the cervical canal, especially in the anterior wall.
- Photo. 5** In part of the endocervix, note papillotubular growth of columnar cancer cells, similar to that of endometrioid adenocarcinoma (H-E Stain. $\times 10$).
- Photo. 6 and 7** In most of the uterine cervix, micropapillary growth of carcinoma cells is small cuboidal with a large N/C ratio (6 : superficial layer, 7 : the deep layer) (H-E Stain. $\times 10$).

Photo. 1

Photo. 2

Photo. 3

Photo. 4

Photo. 5

Photo. 6

Photo. 7